

(1 3) 鋳業 (非鉄金属製錬・精製業)

19 / 18 20 / 19 伸び率10%以上 ● 伸び率0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

(1) 需要 (表 - 1 ~ 3 参照)

【銅】 1 9 年度の国内需要は前年度比1.0%増とほぼ横這いに留まった。

2 0 年度は、電線、伸銅品の需要が僅かに伸びると予測されることから、全体としては前年度比1.6%増の1,285.0千トとなる見通し。

【鉛】 1 9 年度の国内需要は、蓄電池向け需要が自動車生産増や蓄電池価格値上げ前の駆け込み需要などから上昇したことで、前年度比2.3%増の236.2千トとなった。

2 0 年度の国内需要は、蓄電池向け以外の需要分野がほぼ横這いで推移するものの、蓄電池向け需要が前年度の反動で減少するため、前年度比3.1%減の228.8千トとなる見通し。(1 7 年度は消費の報告不備があったため、内需は大幅に低下している。見掛け消費では230千トン台)

【亜鉛】 1 9 年度の国内需要は、鉄鋼業界のめっき鋼板ライン増強が一年を通してその効果が現れ、一般めっきの生産が回復したことで、めっき向け需要が大幅増となったことから、前年度比7.9%増の501.5千ト*となった。

2 0 年度については、めっき向け以外の需要分野での需要回復が期待され、めっき鋼板向け需要も引き続き増加すると予測されることから、前年度比1.2%増の507.6千ト*と増加する見通し。* 報告値ベース、見掛け消費では 1 9 年度581.6千ト、2 0 年度607.6千ト。

(2) 生産・設備稼働 (表 - 1 ~ 3 参照)

【銅】 生産については、一部製錬所の能力増強効果が一年を通して現れたことで、1 9 年度は前年度比2.0%増の1,581.8千トとなった。しかしながら、2 0 年度は、輸入鉱石の低品位傾向やここ数年にわたる原料事情の悪化などから、前年度比0.3%増の1,587.0千トとほぼ横這いに留まる見通し。したがって、2 0 年度の稼働率は前年度比微減の92.5%となる見通し。2 0 年度の期末在庫量は、生産、内需ともほぼ横這いに見込まれることで、通年ほぼ100.0千トで推移する見通し。

【鉛】 生産については、スクラップ原料の供給状況が若干改善されたことで、1 9 年度は前年度比2.0%増の222.3千トとなった。2 0 年度も、スクラップ原料の供給状況に左右されつつ、前年度比1.5%減の219.0千トとなる見通し。2 0 年度の稼働率は79.7%と、80%台を僅かに割り込む見通し。期末在庫量については、生産と内需がほぼ均衡するため、2 0 年度は通年ほぼ14.5千トで推移する見通し。

【亜鉛】 1 9 年度の生産については、原料事情が好転したにもかかわらず、操業上の小トラブルや一部製錬所の大型定修が重なったことで、前年度横這いの613.5千トとなった。2 0 年度は、さらなる原料事情の好転から、前年度比4.9%増の643.3千トとなる見通し。2 0 年度の稼働率は、生産上昇が予測されることから、91.5%まで増加する見通し。期末在庫量については、2 0 年度は生産、内需とも増加する見込みから、ほぼ 1 9 年度末と同水準の87.2千トで一年を通して推移する見通し。

(3) 企業収益 (非鉄大手 8 社、連結ベース : 表 - 4 参照)

19年度の非鉄大手 8 社の売上高は前年度比12.6%増の86,898億円、経常利益は同2.5%減の6,736億円と増収減益となった。これは、金属価格の高騰により売上高は伸びたものの、買鉱条件の悪化等のマイナス要因が大きかったためである。

20年度については、前年度比べ金属相場が若干軟化するとともに、買鉱条件の一層の悪化やエネルギーコストの上昇等により、減収減益が見込まれている。

2．設備投資動向（グラフ 1 参照）

19年度実績見込では設備投資は、需要の増加を背景に、生産能力増強及び設備の更新、維持・補修をより一層進める動きが見られ、前年度比で42.1%の増加となった。

20年度計画では設備投資は、全体として対前年度比+11.8%と増加。研究開発の構成比は4%台と大きくはないものの、対前年度比+229.5%と大幅増加。

3．長期資金調達・運用動向

(1) 長期資金運用動向

19年度実績見込では、設備投資の設備投資資金や短期資金への振替を増加させ、投融資額を減少させている。

20年度計画では短期資金から長期へシフトさせる動きに加え、設備投資資金、投融資を増加させる。

(2) 長期資金調達動向

19年度実績見込は、内部資金を中心とすることに変わりはないが、新たに借入金による調達が大幅に増加。

20年度計画でも内部資金を中心とすることに変わりがないが、借入による調達が大幅に減少、代わりに社債による調達が大幅増。

（グラフ 1：設備投資の前年度比の推移）

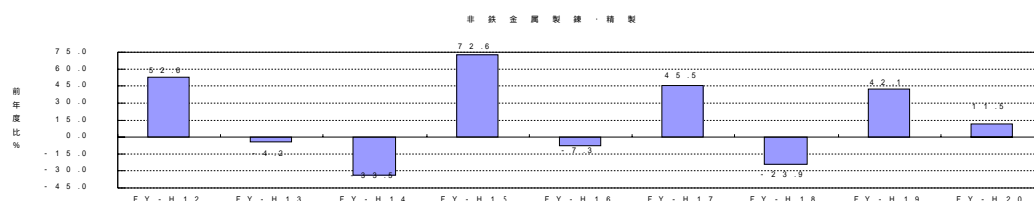


表 - 1 銅地金の需給実績及び見通し

(単位:千トン)

			17年度	18年度	19年度	20年度		
						上期	下期	計
期	初	在庫	127.0	108.4	114.0	99.7	100.0	99.7
供	生	国内鉱出	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
		海外鉱出	1,251.2	1,349.5	1,380.5	696.0	711.0	1,407.0
		その他出	168.2	200.9	201.3	90.0	90.0	180.0
		小計	1,419.5	1,550.7	1,581.8	786.0	801.0	1,587.0
	輸	入	73.1	80.5	100.4	30.0	30.0	60.0
給	給計		1,619.6	1,739.6	1,796.2	915.7	931.0	1,746.7
需	内	電線	767.6	776.5	779.7	391.0	401.0	792.0
		伸銅品	438.9	456.7	462.6	236.0	237.0	473.0
		その他	16.6	19.0	23.0	10.0	10.0	20.0
		内需計	1,223.1	1,252.2	1,265.3	637.0	648.0	1,285.0
	輸	出	268.4	354.4	435.8	150.0	200.0	350.0
要	要計		1,491.5	1,606.6	1,701.1	787.0	848.0	1,635.0
期	末	在庫	108.4	114.0	99.7	100.0	100.0	100.0
過	欠		19.7	19.0	(4.6)	28.7	(17.0)	11.7
設	備能力		1,577.9	1,627.5	1,695.0	857.4	857.4	1,714.8
稼働率(%)			90.0	95.3	93.3	91.7	93.4	92.5
地金再資源化率(%)			11.8	13.0	12.7	11.5	11.2	11.3

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。
(出所) 非鉄金属需給統計及び業界ヒアリング結果に基づく

表 - 2 鉛地金の需給実績及び見通し

(単位:千トン)

			17年度	18年度	19年度	20年度		
						上期	下期	計
期	初	在庫	13.5	14.7	16.2	14.4	14.5	14.4
供	生	国内鉱出	3.6	1.4	0.2	0.0	0.0	0.0
		海外鉱出	102.6	105.7	103.3	51.3	48.8	100.1
		その他出	111.1	110.7	118.8	60.1	58.8	118.9
		小計	217.3	217.8	222.3	111.4	107.6	219.0
	輸	入	24.6	30.9	28.1	8.0	15.0	23.0
給	給計		255.4	263.4	266.6	133.8	137.1	256.4
需	内	鉛管板	2.4	2.7	2.8	1.4	1.4	2.8
		蓄電池	132.0	205.9	212.5	96.7	108.3	205.0
		無機薬品	15.7	12.0	10.4	5.2	5.2	10.4
		はんだ	6.0	3.4	2.9	1.5	1.5	3.0
		その他	6.4	7.0	7.6	3.8	3.8	7.6
		内需計	162.5	231.0	236.2	108.6	120.2	228.8
要	輸	出	4.0	7.9	20.2	10.0	10.0	20.0
要	要計		166.5	238.9	256.4	118.6	130.2	248.8
期	末	在庫	14.7	16.2	14.4	14.5	14.5	14.5
過	欠		74.2	8.3	(4.2)	0.7	7.6	(6.9)
設	備能力		274.8	274.8	274.8	137.4	137.4	274.8
稼働率(%)			79.1	79.3	80.9	81.1	78.3	79.7
地金再資源化率(%)			51.1	50.8	53.4	53.9	54.6	54.3

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。
(出所) 非鉄金属需給統計及び業界ヒアリング結果に基づく

表 - 3 亜鉛地金の需給実績及び見通し

(単位:千トン)

			17年度	18年度	19年度	20年度		
						上期	下期	計
期	初	在 庫	88.7	97.4	86.1	83.7	87.2	83.7
供	生 産	国 内 鉱 出	39.3	9.0	5.4	0.0	0.0	0.0
		海 外 鉱 出	473.6	502.3	507.7	236.2	270.0	506.2
		そ の 他 出	104.7	107.0	100.4	71.9	65.2	137.1
		小 計	617.6	618.3	613.5	308.1	335.2	643.3
	輸	入	48.7	41.9	50.7	25.1	14.9	40.0
給	給 給 計		755.0	757.6	750.3	416.9	437.3	767.0
需	内 需	亜鉛めっき鋼	217.5	219.7	220.8	112.6	112.9	225.5
		その他めっき	74.5	78.1	118.0	54.8	63.2	118.0
		伸 銅 品	62.5	67.7	62.4	31.5	31.9	63.4
		ダイカスト	46.4	47.0	45.0	20.5	25.1	45.6
		そ の 他	64.9	52.4	55.3	27.0	28.1	55.1
	内 需 計		465.8	464.9	501.5	246.4	261.2	507.6
輸	出		60.1	68.9	85.0	33.3	38.9	72.2
要	要 計		525.9	533.8	586.5	279.7	300.1	579.8
期	末	在 庫	97.5	86.1	83.7	87.2	87.2	87.2
過	欠		131.6	137.7	80.1	50.0	50.0	100.0
設	備 能 力		703.2	703.2	703.2	351.6	351.6	703.2
稼	働 率 (%)		87.8	87.9	87.2	87.6	95.3	91.5
地	金再資源化率 (%)		17.0	17.3	16.4	23.3	19.5	21.3

注) 地金再資源化率とは、地金生産量に占めるその他(くず等)の割合をいう。
(出所) 非鉄金属需給統計及び業界ヒアリング結果に基づく

表 - 4 企業経営動向(非鉄大手8社、連結ベース)

(単位:億円、%)

	18年度実績	19年度実績	20年度予想
売 上 高	77,188	86,898	85,300
営 業 利 益	5,129	4,729	3,714
(売上高営業利益率)	(6.6%)	(5.4%)	(4.4%)
経 常 利 益	6,907	6,736	4,942
(売上高経常利益率)	(8.9%)	(7.8%)	(5.8%)
当 期 利 益	3,949	3,662	2,613
(売上高当期利益率)	(5.1%)	(4.2%)	(3.1%)

(注) 非鉄大手8社決算短信、他決算資料より作成